

尾張西支部

減ってはいるがまだまだ 無くない、不法投棄 現場をパトロール

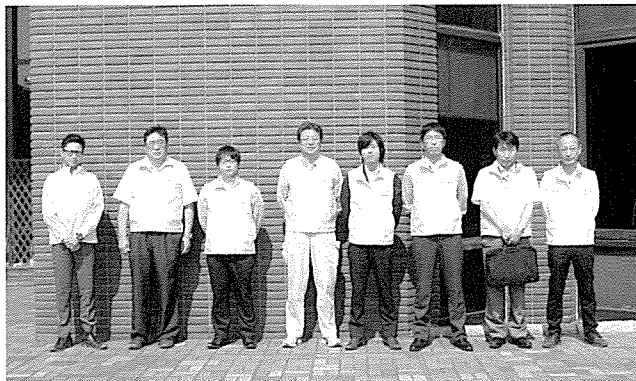
6月23日（金）尾張西支部（冨田昭夫支部長）の不法投棄防止パトロールが支部長、役員、会員ら38名が支部内を地区ごとに分かれて、午前中にかけてパトロールを行いました。パトロールの結果は、地区ごとに写真、地図、状況説明を添付して支部長に報告されました。

今回の取材では佐藤智和副支部長ら8名が飛鳥村役場駐車場に集合し、弥富市・飛鳥村地区のパトロールに同行しました。

飛鳥村役場の担当者に挨拶し、不法投棄現場の情報等をお聞きし会員の車3台に分乗して昨年指摘があった不法投棄現場に向いました。

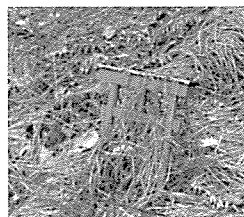
始めの現場はフェンス越しの私有地にペットボトルなどの家庭ごみからプラスチックの保冷箱、車のエンジン部品など雑多のごみが捨てられており、今回は廃タイヤが増えていました。行政による不法投棄禁止の看板も立てられていましたがまだ不法投棄は後をたたないようです。

次に南へ数100メートル離れたこんもりとした丘の道路脇に一斗缶、空缶、ペットボトル、レジ袋など家庭ごみが捨てられていました。ここには不法投棄禁止の看板と監視カメラが設置されていました



弥富市・飛鳥村地区のパトロールに参加された皆様

が、ごみは無くならず高さ30センチほどの小さな鳥居が立てられていました。これは不法投棄をする者に罰が当たるぞといった精神的な効果を狙ったもの。会員の方からこうした鳥居は飛鳥村各所で見られるとの話でした。



飛鳥村役場でお聞きした筏川排水機場脇の堤防には、不法投棄か漂着ごみか分からないプラスチック破片やペットボトルが溜まっていた。また堤防脇の夏草が茂っている中に、冷蔵庫、カーシート、布団、ブルーシート、クーラーボックス、カップラーメンの容器や弁当空箱などが捨てられていました。

日光川堤防の脇には長年捨てられ元が何であったか分からないプラスチックの破片や車の部品、鉄くず、コンクリートがらなどが捨てられていました。

その後、飛鳥村役場に戻り佐藤副支部長よりパトロールの結果を報告しました。

今回のパトロールでは不法投棄9件、不適正保管5件がありました。



フェンス越しに不法投棄された廃タイヤなど



筏川堤防の不法投棄現場



筏川堤防脇の緑地にカーシートが不法投棄